（別紙様式4）

令和7年5月31日

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地
専門学校岡山ビジネスカレッジ	昭和58年3月3日	西崎　誠	〒　700－0022 （住所）岡山県岡山市北区岩田町3－22 （電話）086－233－2340
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地
学校法人貝畑学園	昭和58年3月3日	貝畑　雅二	〒　700－0825 （住所）岡山県岡山市北区田町1－1－9 （電話）086－230－0250

分野	認定課程名	認定学科名	専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度
文化・教養	文化教養専門課程	メディカルトリマー学科	平成17(2005)年度	－	平成27(2015)年度

学科の目的	動物業界で即戦力として活躍できるよう、トリミング、動物看護、訓練に必要な、幅広い知識と高い技術を身につけ、また、社会人としての常識・マナーを兼ね備えた人材を育成する。
学科の特徴（主な教育内容、取得可能な資格　等）	主な教育内容：犬のトリミングを中心としたペット美容実習及びそれに付随した動物の看護や栄養学、しつけに関する知識を習得する。 取得可能な資格（JKCトリマーライセンスC級、トリマーライセンス1級・2級、サロントリマー1級・2級、愛玩動物飼養管理士1級・2級、サービス接遇検定2級・3級） コンテスト入賞等の実績　全国動物専門学校協会主催　トリミング全国大会ハイクラスの部　奨励賞1名受賞（2024年2月）

修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼間	※単位時間、単位いずれかに記入	1,770 単位時間 単位	330 単位時間 単位	0 単位時間 単位	30 単位時間 単位	0 単位時間 単位	1,410 単位時間 単位

生徒総定員	生徒実員(A)	留学生数（生徒実員の内数）(B)	留学生割合(B/A)	中退率
80 人	123 人	0 人	0 %	4 %

就職等の状況

■卒業者数（C）	59	人
■就職希望者数（D）	51	人
■就職者数（E）	51	人
■地元就職者数（F）	6	人
■就職率（E/D）	100	%
■就職者に占める地元就職者の割合（F/E）	12	%
■卒業者に占める就職者の割合（E/C）	86	%
■進学者数	0	人

■その他

（令和　　6 年度卒業者に関する令和７年５月１日時点の情報）

■主な就職先、業界等

（令和6年度卒業生）

ペットサロン業界（主な就職先　株式会社アミーゴ、株式会社AHB、有限会社フェリーチェ　他）
動物病院業界（主な就職先　ひらい動物病院、いぬとねこの病院、ノースヒルズ動物病院　他）

第三者による学校評価

■民間の評価機関等から第三者評価：　無

※有の場合、例えば以下について任意記載

評価団体：　　受審年月：　　評価結果を掲載したホームページＵＲＬ

当該学科のホームページURL

URL:https://www.obcnet.ac.jp/course/dog/

企業等と連携した実習等の実施状況（A、Bいずれかに記入）

（A：単位時間による算定）

総授業時数	1,770 単位時間
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	1,440 単位時間
うち企業等と連携した演習の授業時数	0 単位時間
うち必修授業時数	1,770 単位時間
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	1,440 単位時間
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	0 単位時間
（うち企業等と連携したインターンシップの授業時数）	30 単位時間

（B：単位数による算定）

総単位数	単位
うち企業等と連携した実験・実習・実技の単位数	単位
うち企業等と連携した演習の単位数	単位
うち必修単位数	単位
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の単位数	単位
うち企業等と連携した必修の演習の単位数	単位
（うち企業等と連携したインターンシップの単位数）	単位

教員の属性（専任教員について記入）

① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者	（専修学校設置基準第41条第1項第1号）	1 人
② 学士の学位を有する者等	（専修学校設置基準第41条第1項第2号）	1 人
③ 高等学校教諭等経験者	（専修学校設置基準第41条第1項第3号）	0 人
④ 修士の学位又は専門職学位	（専修学校設置基準第41条第1項第4号）	0 人
⑤ その他	（専修学校設置基準第41条第1項第5号）	0 人
計		2 人

上記①～⑤のうち、実務家教員（分野におけるおおむね５年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定）の数	1 人

1.「専攻分野に関する企業、団体等（以下「企業等」という。）との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

（1）教育課程の編成（授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。）における企業等との連携に関する基本方針

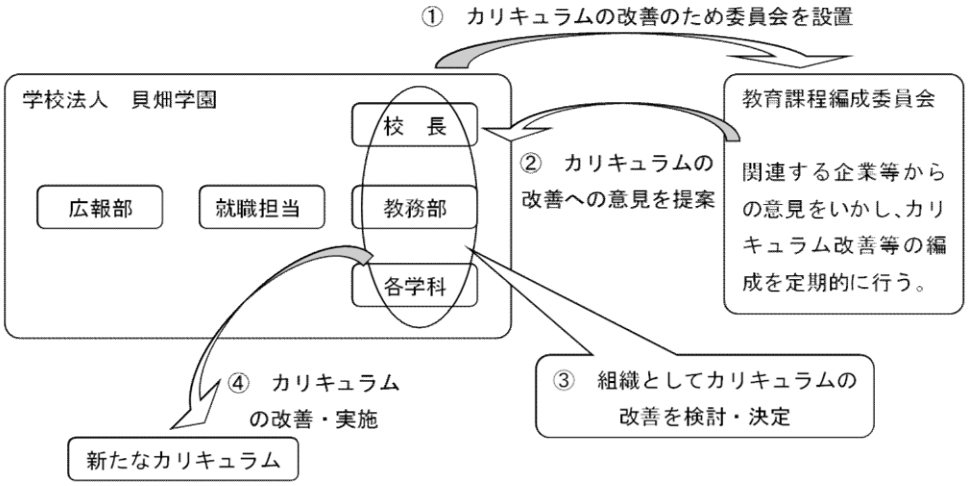
動物に関わる業界は、近年、目まぐるしく変化しており、且つ進化し続ける市場を背景に、この専門分野における実践的な知識・技術・技能を認知すべく職業教育に関連した企業と組織的に連携し、授業科目の創設および既存科目の内容の改善・工夫を行うこととする。

（2）教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

教育課程編成委員会は、企業等の要請を十分に活かしつつ実践的かつ専門的な職業教育を主体的に実施するために、学校法人貝畑学園において、編成委員会を教務部と別組織として編成し、この中にメディカルトリマー学科編成委員会を置く。

まず、専攻分野に関した動向や新たに必要となる人材スキル等の情報を外部委員より頂き、この意見、要望を取り入れ教育課程の骨組み、および科目内容の詳細を各学科、教務部、校長を中心に、また、就職担当、広報部の意見も参考に検討し、改善、変更、追加科目等を詰め、作成した科目内容について、再度、検討協議し、次年度の教育課程に反映していく。



（3）教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和6年7月1日現在

名 前	所 属	任期	種別
荒井 嘉久	一般社団法人 日本ペットビジネススクール協会 代表理事	令和5年6月1日～令和7年5月31日（2年）	①
上田 洋平	こくたいちょう動物病院 院長	令和6年6月1日～令和8年5月31日（2年）	③
坂東 英二	内部委員 学生部長	令和6年4月1日～令和8年3月31日（2年）	―
山中 一馬	内部委員 教務部	令和6年4月1日～令和8年3月31日（2年）	―
北川 俊輔	内部委員 教務部	令和6年4月1日～令和8年3月31日（2年）	―

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。（当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「－」を記載してください。）

①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員（1企業や関係施設の役職員は該当しません。）

②学会や学術機関等の有識者

③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

（4）教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

（年間の開催数及び開催時期）

年2回 （10月、3月）

（開催日時（実績））

第1回 令和6年11月21日 13:30～15:00

第2回 令和7年3月28日 14:00～15:30

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況
※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

動物業界の現場では、新卒なりの対話力と提案力が求められており、単に会話ができる程度の対話力は当然備わっているものとし、特に求められているものは、一方的に説明することではなく相手の意見を引き出せる対話力の強化が必要との意見を基に、ペット美容実習(2年)では一般の飼主さんのトリミングにおいて、要望を聞いたり、電話連絡等を学生主体でおこなうこととした。また、ペット経営学ではお客様の目線になって対話する方法や、その商品やサービスを利用することでどのような結果が期待できるかなどをお客様と一緒になって考える提案力を磨くため、接客ロールプレイングの授業形態を取り入れた。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

ペットサロン、ペットショップ、動物病院等への就職に向けて、実際の現場で研修を行うことで仕事内容の理解、業界についての情報を知ること。トリミング技術、犬の訓練しつけ等を、座学、実習を通して身につけることにより、実践的な高いスキルを持った人材を育成することを目指す。また、派遣研修を通してトリマーの役割、トリミングの技術レベル、動物看護士の役割を知り、トリマーライセンス・愛玩動物飼養管理士試験の合格を目指す。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容
※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

メディカルトリマー学科の担当教員と企業の講師により授業内容等の事前打ち合わせを行い、実際のペットサロン、ペットショップ、動物病院等で必要な知識、トリミング技術・訓練・しつけの指導を行う。日々の指導においては担当教員と講師間で連携を取りながら授業運営を行う。また、実際のショップ等で実務に必要な知識・技術・接客対応の研修を行う。終了時には企業の講師による成績評価を基に認定を行う。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要		連携企業等
ペット美容実習Ⅰ	2.【校内】企業等からの講師が一部の授業のみを担当	ウィッグでの練習、実際の犬を使用してのグルーミングの基本からカットまで、実習を通じて身につける。	ペットサロン　フェリーチェ
ペット美容実習Ⅱ	2.【校内】企業等からの講師が一部の授業のみを担当	実習犬および一般家庭の犬を使用してトリミングの実習を行う。一連の作業の時間短縮を図る。	ペットサロン　フェリーチェ
動物飼養管理実習	1.【校内】企業等からの講師が全ての授業を主担当	訓練・しつけの方法を基礎から学び、実習を通じて身につける。	犬のこんしぇるじゅ　プラスわん
校外研修	4.【校外】企業等が主催するインターンシップ等(学科が主体的に企画していないものを指す。)	夏期休暇中に7日間程度、ペットショップ・動物病院等で仕事の流れ、仕事内容等について学ぶ。	(株)アミーゴ、Candy　Candy、 やさか動物病院、 (有)フェリーチェ他　全45社

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針
※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

本校、教育研修規定 第4条 教育計画は、学校の教育目的・基本方針に基づき、経営計画に則した視野から次の計画を立てるものとする。
(1)　長期教育計画　教育基本方針に基づいて長期的な教育計画を立てる。
(2)　年次教育計画　長期教育計画と連動して、年度ごとに年次教育計画を立てる。
に基づき、校長、教務部長及び学科担当が計画し、当学科では、動物業界等の団体が主催する研修に参加し、業界の動向等の知識を習得し、学生への指導へと生かしていく。また、授業の進め方やコミュニケーション能力を高める研修を実施し、すべての教員が学生指導を行っていく上で必要な知識、スキルを習得する。

(2)研修等の実績
①専攻分野における実務に関する研修等

研修名:　トリマー教師向け研修会　　連携企業等: 全国動物専門学校協会

期間:　令和6年8月5日(月)13:00～15:30　　対象: 坪井紫月

内容　ドッグサロンで人気の「テディベアカット」の顔のつくり方

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名： 怒りの感情と上手に付き合うためのテクニック　連携企業等： 日本ペップトーク普及協会　松永　佳世子

期間： 令和6年9月25日（水）9:30～12:30　対象： 山中一馬

内容 怒りを感じたときに反射的に対応しないテクニックや怒りを感じにくくなる人間関係に必須な自分の感情に向き合うトレーニング

研修名： ペップトーク実践研修　連携企業等： 日本ペップトーク普及協会　松永　佳世子

期間： 令和7年3月26日（水）9:30～12:30　対象： 山中一馬

内容
言葉の力を使いこなし自分と学生指導にいかす
基本編のおさらいとペップトークを用いたコミュニケーション法の実践
ゴールペップトーク成功の3要素
①What　何を言うか　②How　どう言うか　③Who　誰が言うか

（3）研修等の計画
①専攻分野における実務に関する研修等

研修名： 社会人教育プログラム「犬と猫の栄養管理学」　連携企業等： 岡山理科大学 研究・社会連携部

期間： 令和7年10月4日（土）13：00～15：00　対象： 山中一馬

内容 心疾患、泌尿器疾患、糖尿病の栄養管理

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名： 多様化する学生の課題と行動理解　連携企業等： NPO法人STEP

期間： 令和7年9月下旬予定　対象： 山中一馬

内容 ～教員のための支援力向上研修～

研修名：　連携企業等：

期間： 令和8年3月予定　対象： 山中一馬

内容

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

（1）学校関係者評価の基本方針
年度ごとに行っている学内自己評価委員で作成している自己評価を基に、企業等の学校関係者委員と情報を共有し、点検・評価を行い、不備な事項についての改善、疑問点の解消を行うことで、自己評価の客観性・透明性を高めていく。
また、関連企業・病院、教育関係者や卒業生といった学校に関係する人たちに、学校を理解してもらう情報を発信し、学校だけでなく、互いに協力しながら学生のことを考え、それぞれの立場・視点に立って意見を出し合うことで、よりよい学校づくりを行っていく。

（2）「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
（1）教育理念・目標	教育理念・目的・育成人材等
（2）学校運営	学校運営
（3）教育活動	教育活動
（4）学修成果	教育成果
（5）学生支援	学生支援
（6）教育環境	教育環境
（7）学生の受入れ募集	学生の募集と受け入れ
（8）財務	財務
（9）法令等の遵守	法令等の遵守
（10）社会貢献・地域貢献	社会貢献
（11）国際交流	

※（10）及び（11）については任意記載。

（3）学校関係者評価結果の活用状況
学校と学校関係者間で情報を共有し、不備な点等の改善、疑問点の解消を行った結果を、情報公開することにより、関連

企業・病院、教育関係者や卒業生といった学校に関係する人たちに学校を理解してもらい、学校と互いに協力しながら学生のことを考え、それぞれの立場・視点に立って意見を出し合うことで、よりよい学校づくりを行っていく。
　学生指導においては、指導記録をきちんと残し、担当教員だけでなく、全体での情報共有を行う。職業体験（インターンシップ）については、各学科で目的の再確認を行い、時期・日数等について検討を行う。ボランティア清掃活動等は、学校全体、各学科で今以上の参加を促す、また、参加機会を与えるなど後押しの出来る方法を検討していく。
　評価の高い項目については、学校の強みとして把握し広報活動等で有効に利用していく。

＜学校関係者評価委員からの意見①＞
他の学校で外部講師をした際、学生への授業アンケートがあり、結果のフィードバックがあった。学生の意見を聴けるよい方法なので是非活用してほしい。
→ 現在は紙ベースでアンケートを実施し、教務部長と各学科担当が内容を把握している。今後はWebアンケートの導入を検討し、ペーパーレス化を図るとともに、集計結果を科目担当教員にフィードバックできるような仕組みを整備していく。

＜学校関係者評価委員からの意見②＞
高等学校では、近年増加している精神的な疾患を持つ学生の対応が課題となっているが、専門学校でも対応策を整備したほうが良いのではないか。
→本校においても精神的に問題を抱えている学生の比率が増えているため、担任とキャリアセンタースタッフが連携し、学生フォローを強化する。また学内に相談窓口を開設し、メールでの相談が出来るようにするほか、臨床心理士の方とも連携して希望学生が面談を行えるよう合わせて環境を整備していく。

（4）学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和6年7月1日現在

名　前	所　　属	任期	種別
穐山　晃治	株式会社アコービューティック 代表取締役社長	令和6年6月1日～令和8年5月31日（2年）	企業等委員
有信　秀和	パティスリーピアジェ　代表	令和6年6月1日～令和8年5月31日（2年）	企業等委員
磯島　貴史	株式会社ティアラ　代表取締役社長	令和6年6月1日～令和8年5月31日（2年）	企業等委員
河合　洋二郎	河合内科西口クリニック　院長	令和6年6月1日～令和8年5月31日（2年）	企業等委員
杉井　正治	山陽事務機株式会社　営業部次長	令和6年6月1日～令和8年5月31日（2年）	卒業生
林　秀臣	創志学園高等学校　参与兼進学本部長	令和5年6月1日～令和7年5月31日（2年）	企業等委員
濱本　隆史	株式会社アミーゴ　西ブロック長	令和5年6月1日～令和7年5月31日（2年）	企業等委員
森本　浩史	株式会社カイタックホールディングス 総務部　ゼネラルマネージャー	令和5年6月1日～令和7年5月31日（2年）	企業等委員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。
（例）企業等委員、PTA、卒業生等

（5）学校関係者評価結果の公表方法・公表時期
（ホームページ）・ 広報誌等の刊行物 ・ その他（　　）
URL:　https://www.obcnet.ac.jp/gakuen/about/index.html#p05
公表時期:　令和7年10月15日

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

（1）企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針
　学校自己評価の実施、学校関係者（関連企業団体、教育関係者、卒業生）による評価を実施、公表することにより、教育環境の整備、教育内容の充実、教育水準の向上にさらに努めていく。
　情報提供は、ホームページ、パンフレット等で行うが、基本的にホームページから閲覧でき、内容の更新をきちんと行うことで、関連企業団体、卒業生、保護者等に学校のことを理解してもらう。

（2）「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
（1）学校の概要、目標及び計画	学園概要、沿革、基本方針
（2）各学科等の教育	学科紹介
（3）教職員	教員
（4）キャリア教育・実践的職業教育	実践教育
（5）様々な教育活動・教育環境	教育活動
（6）学生の生活支援	学生支援
（7）学生納付金・修学支援	学生募集
（8）学校の財務	財務
（9）学校評価	自己評価・学校関係者評価
（10）国際連携の状況	
（11）その他	

※（10）及び（11）については任意記載。

（3）情報提供方法

（ホームページ）・ 広報誌等の刊行物 ・ その他（ ））

URL： https://www.obcnet.ac.jp/gakuen/about/index.html#p05

公表時期： 令和7年3月20日

授業科目等の概要

	（文化教養専門課程 メディカルトリマー学科）																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
1	○			犬学	各犬種のスタンダード、代表的な犬種の沿革とカラー等、トリマーや犬に携わる仕事に必要な知識を学ぶ。	1通2通	60	2	○			○		○		
2	○			ペット美容実習Ⅰ	犬の扱い方、道具の扱い方など犬を扱う上で必要な基本知識を学び、ウィッグ・実習犬を使用して基本的なトリミングを学ぶ。	1通	510	17	△		○	○		○	○	○
3	○			ペット美容実習Ⅱ	実習犬および一般家庭の犬を使用してトリミングの実習を行う。一連の作業の時間短縮を図る。	2通	480	16	△		○	○		○	○	○
4	○			トリミングサロン実習	実際のトリミングサロンで実施される接客、トリミング施術、商品管理・販売、ＰＯＰ作成などのサロンワークを行う。	1通2通	300	10			○	○		○	○	○
5	○			動物看護学	動物看護師の基本理念、役割および関連法規等を学ぶ。また、検定対策授業、病院での診療見学を行う。	1通2通	120	4	○		△	○		○	○	○
6	○			動物飼養管理学	犬の飼育法、健康管理等の知識を学び、愛玩動物飼養管理士の資格取得のための講義および問題演習を行う。	1通	30	1	○			○		○		
7	○			動物飼養管理実習	犬のしつけ方や飼い方について学び、飼い主にアドバイスできるように実習を行う。	1通2通	120	4	△		○	○			○	○
8	○			ペット経営学	現場で働く上で必要な経営手法や商品管理法、接客法などの基本知識や実践方法を学ぶ。	2通	30	1	○			○		○		
9	○			動物関連法規	動物愛護法や狂犬病予防法など動物業界に携わる者が熟知しておくべき関連法を学習しつつ、動物業界の社会背景を学ぶ。	1通	30	1	○			○		○		
10	○			ペット栄養管理学	栄養学の基礎から、状態ごとに必要な栄養等について理解し、食餌の管理、処方食の知識を学ぶ。	2通	30	1	○			○		○		
11	○			サービス接遇	ビジネスマナーの基本を学び、検定取得を目指す。	1通	30	1	○			○			○	
12	○			校外研修	動物関連企業（ペットショップ・トリミングサロン・動物病院等）での実務研修を行う。	2前	30	1			○		○		○	○
合計					12　科目			1770 単位（単位時間）								

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件：	出席時数が出席すべき総時間数の８０％以上であること、必要数の検定を取得すること、必要単位を取得すること。	１学年の学期区分	2 期
履修方法：	必修科目は必須、選択必修科目は専攻により選択履修	１学期の授業期間	15 週

（留意事項）

１　一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について〇を付し、その他の方法について△を付すこと。

２　企業等との連携については、実施要項の３（３）の要件に該当する授業科目について〇を付すこと。